

2019年度市原市水道事業会計予算について

1 基本的な考え方

水道は、市民の生活環境を支えるインフラとして重要な役割を担っていることから、計画的な施設更新や、漏水等不明水解消による効率性の向上、住民要望に応じた未給水地域への給水拡張などに重点を置き、「安全」「強靱」「持続」の3つの視点から、市民視点で成果を実感できる事業に取り組みます。

(1) 安全 —いつまでも安心で安全な水道—

施設を適正に維持管理し、水源から蛇口までの水質管理を徹底するとともに、給水装置の安全性を向上させることによって、市民に安全で良質な水道水を供給し続けます。

(2) 強靱 —災害に強く対応力のある水道—

将来にわたって安定的に水道水を供給し続けるため、配水管等水道施設の耐震化と更新をさらに推進し、危機管理対策の充実を図ります。

(3) 持続 —将来にわたり安定して供給できる水道—

中長期的な財政収支見通しと適切な資産管理のもと、効率的かつ効果的な事業経営を実践するとともに、人財育成や環境に配慮した事業への取組を推進します。

2 予算規模

(税込・単位:千円)

区 分	2019年度 当初予算 ①	2018年度 当初予算 ②	対前年度比		収入・支出の主なもの	
			増減額 ③=①-②	増減率 ③/②		
収益的 収支	収益的収入	2,680,867	2,608,341	72,526	2.8%	給水収益 993,118 一般会計負担金 858,476 一般会計補助金 718,848
	収益的支出	2,667,651	2,608,341	59,310	2.3%	人件費 322,890 減価償却費 1,102,794 委託料 309,921
資本的 収支	資本的収入	903,370	1,011,300	△ 107,930	△ 10.7%	企業債 854,800 工事負担金 37,114 一般会計負担金 11,456
	資本的支出	2,343,449	2,444,359	△ 100,910	△ 4.1%	人件費 113,405 建設事業費 1,108,213 企業債償還金 1,121,831
	収支差	△ 1,440,079	△ 1,433,059	△ 7,020	0.5%	
支出予算総額		5,011,100	5,052,700	△ 41,600	△ 0.8%	

※ 資本的収支における1,440,079千円の不足額は、消費税資本的収支調整額、損益勘定留保資金(減価償却費など)で補填します。

3 増減要因など予算のポイント

〔収益的収入〕

- 給水収益は、直近の収入状況や消費税率アップの影響により、791万円の増。
- 一般会計繰入金は、7,254万円の増。
 - 一般会計負担金は、資本費高料金対策の国基準単価の変動から、1億82万円の減。
 - 一般会計補助金は、一般会計負担金の減及び支出増の影響から、1億7,336千円の増。

〔収益的支出〕

- 固定資産除却費は、2018年度までに継続事業で施工した大型工事「新井浄水場中央監視制御装置更新工事」等に伴い、例年より多く除却損が発生する影響で、7,880万円の増。
- 委託料は、アセットマネジメントの基礎資料となる「水道施設台帳整理委託(1,727万円)」を新規計上する等、1,588万円の増。

〔資本的収入〕

- 資本的支出「建設事業費」の縮小に伴い、特定財源も連動して縮小。
 - 企業債は、9,600万円の減。
 - 工事負担金は、2,339万円の減。

〔資本的支出〕

- 「(仮称)市原市水道事業経営基盤強化計画」策定委託を計上するとともに、この新計画ができるまでは、今後の施設の在り方の検討に影響を及ぼす設備更新は極力抑制する(現状で最低限維持すべき機能で、緊急性の高い設備更新に留める)方針のもと、建設事業費は、1億653万円の減。
- 上記方針のもとでも、漏水解消(有収率向上)方策は喫緊に対応すべき事業として、重点を置き取り組み、管路布設替は、管路更新率1%相当の事業量(6.55km)を確保。
- 人件費は、資本勘定支弁(水道建設課)職員を1名減(13→12名)とし、509万円の減。

4 企業債残高の状況

2019年度末の企業債残高は、前年度に比べ2億6,703万1千円減少し、119億1,518万5千円となる見込みです。(単位:千円)

2018年度末残高見込 ①	2019年度当初予算			2019年度末残高見込 ①+④
	借入額 ②	償還額 ③	差引 ④=②-③	
12,182,216	854,800	1,121,831	△ 267,031	11,915,185

5 重点事務事業

()書きは、「前年度当初予算額/前々年度決算額」を表す。

(1) 【新規】(仮称)市原市水道事業経営基盤強化計画策定事業(水道総務課)

25,070(- / -) 千円

[一般財源25,070千円]

水道の個別計画「水道事業経営計画」を見直し、アセットマネジメント実践に向け、耐震化・長寿命化・再構築の諸計画を枠組みに加えた新たな計画を策定します。

・計画策定委託 23,470 千円

【2019～2020継続事業】 総額 58,696 千円

(2) 【新規】水道施設台帳整備事業(給水課) 17,270(- / -) 千円
[一般財源17,270千円]

改正水道法で法定台帳として位置づけられた「水道施設台帳」を整備するため、修繕履歴等の施設データ項目を整理します。

- ・水道施設台帳整理委託

(3) 表流水系施設整備事業(給水課新井浄水場) 135,421(369,658/140,366) 千円
[企業債115,000千円 一般財源20,421千円]

高滝取水場等、高滝ダムが水源である系統の取水・浄水・配水施設の更新費用です。

- ・高滝取水場取水ポンプ設備更新実施設計委託
- ・高滝取水場取水ポンプ盤更新工事 ほか2件

(4) 地下水系施設整備事業(給水課) 107,461(42,872/31,876) 千円
[企業債91,000千円 一般財源16,461千円]

地下水が水源である系統の取水・浄水・配水施設の更新費用です。

- ・月出第1号井設備改良工事 ほか4件

(5) 新規加入事業(水道建設課) 53,400(76,000/52,510) 千円
[企業債16,500千円 工事負担金29,370千円 一般財源7,530千円]

未給水区域からの給水要望を受け、区域内の配水支管等を新たに布設します。

- ・配水管布設測量設計委託 ときわ台地区
- ・その他新規給水要望による配水管布設工事

(6) 配水管整備拡張事業(水道建設課) 57,111(31,608/31,345) 千円
[企業債48,200千円 一般財源8,911千円]

未給水区域である栢橋地区に配水するための基幹管路を布設します。また、荻作地区では、バックアップ機能の強化を図るため、基幹管路間の連絡管を布設します。

- ・配水管布設工事 栢橋地区 L=390m
- ・配水管布設工事 荻作地区 L=40m

(7) 基幹施設拡張事業(水道建設課) 4,310(5,000/ -) 千円
[企業債2,900千円 一般財源1,410千円]

未給水区域である栢橋地区への配水に向けて、加圧所の整備用地を取得します。

- ・調査費
- ・栢橋加圧所用地費 A=120m²

(8) 石綿セメント管更新事業(水道建設課)

323,527(397,547/225,249) 千円

[企業債272,500千円 一般財源51,027千円]

漏水の一因となっている石綿セメント管を、耐震性・耐久性の優れた管へ更新します。

- ・配水管布設替測量委託 押沼ほか L=2,000m
- ・配水管布設替工事 山田ほか L=3,330m

(9) 有収率向上事業(水道建設課)

339,272(247,100/31,180) 千円

[企業債286,500千円 一般財源52,772千円]

漏水多発箇所の硬質塩化ビニル管などを、耐震性・耐久性の優れた管へ更新します。

- ・配水管布設替測量委託 光風台 L=1,600m
- ・配水管布設替工事 光風台ほか L=3,220m

(10) 鉛給水管更新事業(水道建設課)

51,100(51,100/33,966) 千円

[一般財源51,100千円]

水道水のさらなる安全を確保するとともに、漏水解消に向けて鉛給水管をポリエチレン管等に更新します。

- ・給水管更新工事 N=170箇所
- ・給水管舗装本復旧工事